

5.6 構法・歴史部会の来年度への課題（今年度完了分と来年度への継続事項）

5.6.1 2012年度実施予定の実大振動台実験試験体の検討

2010年度は実大振動台実験として、4棟の試験体が設定されたが、実験の最重要目的が振動解析のために地震時の基本的な挙動データを得ることであったため、平面計画や構法仕様において、伝統構法に忠実とはいいがたい部分も少なくなかった。しかしながら、今年度の実大実験によって、当初計画されたデータを十分獲ることができ、第1段階としての成果は上がったようである。

そこで、第2段階として、来るべき2012年度実施予定の実大振動台実験において、より伝統構法に忠実な試験体を作成するために、伝統構法における標準的な平面構成・軸組・小屋組・床組・材種・部材寸法等を検討し、実験検証部会に提案したいと考えている。

5.6.2 重要文化財修理工事報告書による伝統構法の調査・研究

伝統構法に関する調査・研究の重要な柱のひとつとして、重要文化財修理工事報告書の中から、主として住宅建築を対象として、継手・仕口、部材寸法、材種、架構方法等のデータを収集・分類・整理する作業をおこなっている。

今年度はその第1段階として、もっとも充実した内容を備えた奈良県の重要文化財修理工事報告書を分析し、データの収集・分類・整理方法を確立し、調書のフォーマットを作成した。来年度以降は、この手法を用いて、伝統構法に関するデータを蓄積する作業を継続する。

5.6.3 歴史的建造物遺構による伝統構法の調査・研究

伝統構法に関する調査・研究のもうひとつの重要な柱として、歴史的建造物遺構の現地調査を行っている。

今年度はその第1段階として、現在修理工事が行なわれている重要文化財の住宅建築の中から、小野家住宅(塩尻)、上芳我家住宅・大村家住宅(内子)、勝興寺大広間・書院(高岡)を選び、現地調査を行った。これらの現地調査は、可能な限り構法・歴史部会メンバー全員の参加を求め、今後メンバーが分担して各地の調査を行うに際して、伝統構法に関する共通データが得られるよう、調査方法の確立、調査シートのフォーマット作成、調書作成の考え方とその実践等、いわば今後の調査・研究の研修を行った。

来年度以降は、引き続きメンバー全員による重要文化財渡辺家住宅(新潟県)の現地調査を行うとともに、下記のとおり、全国を13ブロックにわけ、担当者を決めて、個別調査を行うことにしている。

- ① 西東北(青森、秋田、山形)
- ② 東東北(岩手、宮城、福島)
- ③ 北陸(新潟、富山、石川、福井、岐阜北部、京都北部、兵庫北部)
- ④ 北関東・甲信(茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、静岡)
- ⑤ 南関東(茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、静岡)
- ⑥ 東海(岐阜南部、愛知、三重)
- ⑦ 近畿(滋賀、京都南部、大阪、兵庫南部、奈良、和歌山)
- ⑧ 山陰(鳥取、島根、山口北部)
- ⑨ 瀬戸内(岡山、広島、山口南部、徳島、香川、愛媛)
- ⑩ 南四国(高知)
- ⑪ 北九州(福岡、佐賀、長崎、熊本、大分)
- ⑫ 南九州(宮崎、鹿児島)